

令和4年度

# 戸田市教育研究集録

## 戸田市教育フェスティバル開催 オンライン研修

令和5年1月10日(火)、「戸田市教育フェスティバル」を開催し、学校の教職員がオンライン会議システムによるリアルタイム配信を視聴するという形式で研修を行いました。

今年度は「メディアリテラシー教育の本質とは何か」をテーマに、スマートニュース メディア研究所 所長 山脇 岳志 様と、研究員 長澤 江美 様をお招きし、メディアに深く関わられているお立場から実践・研究の両面について御講演いただきました。

### 講演テーマ **メディアリテラシー教育の本質とは何か** 講演概要

スマートニュース メディア研究所



所長 山脇 岳志 氏 研究員 長澤 江美 氏



昨今さまざまなフェイクニュースやデマが拡散され、陰謀論も広がっています。虚偽の情報は、真実の情報より早く伝わると言われており、SNSにおける拡散のスピードは、約6倍も速いという研究結果もあります。デジタルの発達によって、SNSでフェイクニュースが広がりやすい時代だからこそ、メディアリテラシーが大切になってきます。

メディアリテラシーが注目されている理由を、5つに整理してみます。

- ① SNSの発達によって、誰もがメディアになっていること
- ② 感染症拡大や戦争などの不安な状況下で、デマや虚偽情報が拡散されていること
- ③ 見たい情報しか見えなくなる「フィルターバブル」に陥りやすいこと
- ④ 「陰謀論」の広まり、メディア不信・報道の自由への懐疑などにより、民主主義に揺らぎが起きていること
- ⑤ 教育界の動き＝「主体的・対話的で深い学び」はメディアリテラシーに通じること

近年、全体主義国家、権威主義国家がむしろ増える傾向にあります。このような国では、国家のプロ

パガンダを疑うようなメディアリテラシーは歓迎されません。メディアリテラシーは、民主主義国において必要なものであり、「民主主義の防波堤」であるとも言えます。

一方で、情報が氾濫する中、学校教育の中で「あれもだめ、これもだめ」と先生が言い続けることも現実的ではありません。市民として主体的に考えていく「デジタルシティズンシップ教育」が必要とされる時代だといえます。

スマートニュース メディア研究所の考える、メディアリテラシーのポイントは、3つあります。

1つ目は、「全てのメディア・メッセージ（情報）は、再構成されていることを意識すること」。同じ場面でも、切り取り方によって印象は大きく変わります。

2つ目は、「クリティカル・シンキングの大切さを自覚すること」。「クリティカル・シンキング」は、「批判的思考」と訳されることが多いですが、その本質は、人を批判することでなく、情報を吟味したり熟慮することだと考えます。

3つ目は、「メディアの仕組みについて理解すること」。特に、SNSや検索エンジン、デジタルメディアで使われる「アルゴリズム」への理解が重要です。膨大な情報の中から、自分にあう情報を届けてくれるという意味では便利ですが、一方で、自分が見たいものしか見えなくなるという「フィルターバブル」に陥る危険を意識しなければなりません。

メディアリテラシー教育は、子供たちが自ら道を切り開き、「生き抜く力」を身につけてもらうことをめざすものであり、戸田市の教育が目指す方向性と一致していると理解しています。